

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	事業所独自の理念があり、地域の中で家族のような環境の元、出来るだけその人らしく生活が出来るようにサービスをさせていただいている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎月実施している会議などで必ず理念を共有し、日々の生活に生かしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	ホームの見やすい場所に、誰が見てもわかりやすい言葉で理念を掲げ、またホームページや、家族向けに配布している新聞に掲載して、理解をいただいている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所とは気軽に挨拶を交わし、慰問などの行事がある時にはパンフレットで連絡し、気軽に立ち寄っていただいている。また、花の苗をいただいたり、草刈りや除雪をしていただいたりと良好な関係を築いている。近所の方が時々利用者の所へ遊びに来て話をされていく。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会主催の新年会、花見等に参加し地域の人々との交流を深めるようにしている。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議の席上で町内会の方に場所が必要なときは事務所を使っていただくよう説明し、快諾していただく。ホームで慰問等の催し事がある場合には、地域の高齢者にも案内し、一緒に楽しんでいる。		今後町内会の方々に向けて認知症についての勉強会を開催したいと考えている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		すべての職員が制度を理解し活用した支援を行えるよう努める。
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者が意見などを言しやすい雰囲気を作り、その意見をスタッフ間で共有し運営に反映させている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用者の暮らしぶりや、健康状態などは、家族がホームに来られたとき、または必要に応じて電話などで連絡を取り、報告をさせていただいている。金銭管理に関しては家族の方が来棟された際に個人の金銭出納台帳を確認していただいている。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	年に2回家族会を行い要望や意見を話し合える機会を作っている。全ての職員は家族の意見や不満を聞き、それらを運営に反映させる後力をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者、管理者も出席したスタッフ会議を月に一度行い意見の交換をし気にかかることはその都度運営に反映させている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	入居者の状態、状況に合わせ勤務の調整を行っている。急な状況の変化時、職員同士の連携体制が自然な形で行われている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員同士が仲良く、良い関係になっているため離職を最小限におさえられている。新しく入社するスタッフに関しては、以前からのスタッフに混じり入居者にそれとなく溶け込んでいけるように配慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたら必要としている支援を迅速に行い、利用者の状態の変化に合わせて関係者と相談しながら対応するように努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	可能な限り入居前に後本人にホームを見ていただいている。入居した日には特にその方との関わる時間を多く持ちホームの雰囲気馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の出来ること、やりたいことを一緒に考え、無理強いわせず本人のペースで楽しく過ごせるように支援している。調理や畑仕事など、スタッフと入居者が一緒に作業し、入居者にいろいろと教えていただく場面作りもしている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	入居者本人を家族と共に支えていけるような関係を築き、入居者と家族が安心して生活出来るように努力している。出来るだけ家族と情報交換を行い、本人にとって最適な方法で支えていけるように共に協力合っている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ほとんどの利用者は家族との関係がよく、頻回に訪ねて来ていただいている。中には関係が崩れてきている方もいますが、これ以上関係が悪くならないように支援している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている。	馴染みの家を訪問したり本人の希望で自宅や住んでいた家を訪ねることを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者一人一人がお互いを尊重し合いながらも助け合う良い関係が出来ている。一人で孤立しているような場面が見られた際にはさり気なく職員が話しかけ、孤立することがないように手助けをさせていただいている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	馴染みの人の家や場所を訪問したり本人の希望で自宅や住んでいた家を訪ねることを実施している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向を把握した上で家族とも協力し本人の意志を出来る限り尊重するように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人及び家族から話を伺い今までの生活習慣、生活環境、各サービス利用の状況及び経過の把握に努めている。		一人一人の暮らし方、生活環境棟を把握しこれまでの暮らし方に近づけるよう一層努力したい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	入居者一人一人の日常生活の過ごし方、心身の状態を把握し、また、日々の変化を細かく把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画の作成にあたりケアマネを中心に担当者が関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映させるように努めている。また、本人の状態にあわせ計画の変更、見直しを行っている。		入居者本意の介護計画を作り、より一層サービスの向上を目指したい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の見直しは介護計画の期間に応じて見直しを行うと共に、現状に即した新たな計画を作成し、その都度関係者と話し合いを持ち作成している。		入居者の現状を把握し変更を必要とした際にも本人や家族、関係者と話し合いながら入居者にとって最善な介護家計画を作成していきたい。
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やけあの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	入居者の日常の様子を介護記録に記入し、健康状態、精神状態をスタッフ間で共有し、介護計画に即して実践し、必要であれば見直しをし次回の介護計画につなげるように生かしている。		日々の気づきや日常の細かな様子など気づいたことなどを詳しく記入することにつとめたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族に都合で受診が不可能な場合や緊急時などの通院支援や必要に応じた散髪支援、買い物支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	定期的にボランティア、慰問などに来てもらい入居者の娯楽の質向上に努めている。市や地域、また近隣市町村でイベントがあるときには努めて出かけるようにしている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人が行きつけの理美容室があれば出来るだけ縁を切らないように利用させていただいているそうではない方のために訪問サービスを利用させていただいている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加していただき、相談事にも乗っていただいている。		今後活用していく予定

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>契約している訪問看護の看護師と協力しながら健康管理を行っている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症に詳しい医師が地域にいて、気軽に相談したり治療を受けられるような体制が整っている。</p>		
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>現在三名の准看護師が勤務している。その他に地域の訪問看護ステーションと契約し月に一度の訪問とバルーン留置している入居者に対してのバルーン交換をお願いしている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入居者が疾病で入院した場合、早期退院に向け病院関係者と情報交換を行うようにしている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>終末ケアに対しての家族との話し合いを行い、家族からは了承を得て書面も作成している。</p>		<p>今後かかりつけの医師との話し合いを続け理解が得られるように努める。 本人や、家族と話し合い方針の共有を図る。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>研修などに参加してターミナルケアについて学び準備をしている。今のところ実施はしていないが、ホームとして出来ること、出来ないことを見極めて実施していく。</p>		<p>スタッフの研修を積み、本人や家族の方が希望された場合実施する。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人が昔から使っているもの、馴染みの深い物などを持ってきていただき居室内も出来るだけ今までいた部屋の通りになるように工夫している。		今後も、リロケーションダメージを少なくするためにも馴染みの家具などで居室作りが出来るよう努める。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	プライバシーの確保を徹底している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	それぞれの入居者の力にあわせた説明を行い自分で自己決定が出来るように支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人のペースを大切にその日を過ごしていただいているが、職員の人員配置により希望にそぐわない場合もある。		あくまでも入居者が主役で職員は黒子になれるように努力する。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	本人が希望する美容室などに出来るだけいけるようにしている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	出来るだけリクエストをもらってメニューを考えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の希望を聞き、または把握し出来る範囲で提供している。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンに合わせて誘導や声かけを行い自立排泄にむけた支援、個々の状態の変化に対する対応を注意深く行っている。		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の希望に合わせた曜日、時間に来るが体調など個々の状態にあわせ、または把握し、入浴していただいている。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	すべての方が安眠できるような環境を作り、個々の体調や生活パターンに合わせた支援を心がけている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	それぞれの役割を尊重し楽しみごとへの時間作りなどを行い生き甲斐喜びにつながるように支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理が出来る人は持っただき、出来ない方はホームで預かり買い物などを楽しみにしている方は本人の希望に合わせて支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	スタッフと買い物の同行、または各所の行事やイベント等それぞれの希望に合わせて一緒に外出する機会をなるべく多くするようにしている。		出かける人が同じ人ばかりにならないよう、全員がそれぞれ行きたいところにいけるように取り組んでいきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみない普段はいけないうところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	それぞれの利用者の希望に添えるよう、外出する機会を多く作っている。ご家族の方の協力も得られている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	公衆電話は置いていないが、希望があればいつでも自由に電話をかけることができる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族や知人はいつでも遊びに来やすく、また来られた際には御茶でもてなすなどして、心地よく過ごしていただくようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はいかなる時でもしてはいけないこと、例外として拘束をしなければ命に危険がある場合などやむを得ず行うこと、行うときはその行為をする前、または後に必ずご家族に説明し同意を得なければならないことを理解している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中は玄関に施錠しておらず家族の方や入居者が自由に出入りできるようにしている。 入居者が外出する場合は必ず、家族かスタッフと一緒に出かけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日常生活は本人が好きなきことをして自由に過ごしていただいているが、安全には気を配りスタッフ間で所在を確認しあっている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	家族や利用者の方と相談し、本人が管理できる場合は本人で管理し、そうでない場合はホーム側であずからせていただき、危険を防ぐ取り組みを行っている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止のマニュアルを作り、それぞれの利用者の身体状況などを把握し、事故防止に努めている。		
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	初期対応の訓練を消防署立ち会いで行っている。		応急手当のマニュアルを作成し、定期的に訓練する。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回火災訓練を職員全員で実施し敏速に避難誘導が行えるようにしている。また、ご近所や町内会の方とは、災害時に助けていただけるような関係造りが出来ている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	今現在起こりえるリスクの可能性を考え、少しでも減らせるように職員が話し合い、それを家族や入居者に伝え相談していき、暮らしやすい環境作りを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>		<p>全ての職員が理解しているとは言えないので今後勉強会などを行い徹底する</p>
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>		
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	その日のメニューの食材を使い切るように努め、調理用具等は毎日漂白除菌を行い衛生管理を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関の風除室には植物やテーブルを置き、家庭的で親しみやすい空間を作り、利用者の方や家族の方がくつろげる様になっている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用空間には利用者の手作りの作品が数多く飾られ、また、季節毎や行事毎に飾りを替え、居心地よく過ごしていただけるように工夫している。飾りに統一感を持たせ落ち着いた雰囲気になっている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にはさまざまな椅子等がおかれ、好きな椅子でくつろげるようになっている。気の合った人同士でお話をしたり、趣味を楽しんだり思い思いに過ごしていただいている。それぞれに気に入った場所があるのでそれらが重複してトラブルが起きないように気を配っている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には本人の使い慣れた家具を用意していただき居心地良く過ごせる環境を作るようにしている。また入居後に必要となった物は新たに持ってきていただくが、本人や家族と相談して買い足していくようにしている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	居室に空気清浄機を設置し、空気よどみやにおいの対策をしている。夏期には窓を開放し自然の風を取り入れ、冬期には暖房調節を適切に行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> たまにある <input type="checkbox"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族 <input checked="" type="checkbox"/> 家族の2 / 3くらい <input checked="" type="checkbox"/> 家族の1 / 3くらい <input type="checkbox"/> ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input checked="" type="checkbox"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="checkbox"/> たまに <input type="checkbox"/> ほとんどない



サービスの実績に関する項目		取り組みの成果
項目		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】  
 (日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

日々の生活の中で安心感や満足感を得られるような支援を行っている。